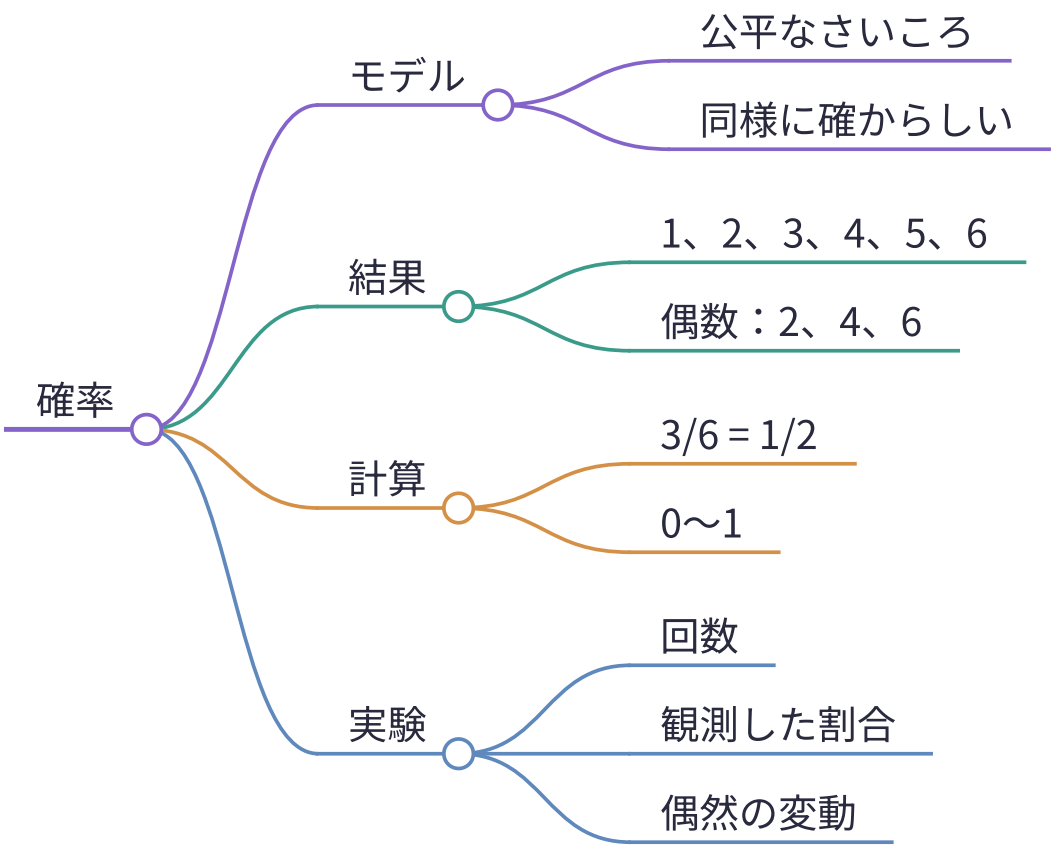
確率

理論上のモデルと実験結果を区別します。



枝を一つずつ読み、細部を隠して自分の言葉で説明してみましょう。

内容を理解する

各結果が同様に確からしいとき、確率は条件を満たす場合の数を全体の場合の数で割って求めます。値は0から1の間です。少ない回数の実験では、観測した割合が理論値と異なることがあります。さいころが公平であるなどの前提も示します。

マップの構成

可能な結果と調べる事象を先に決めます。

> **ここに注意**
> 確率1/2でも、必ず交互に起こるわけではありません。

自分で考えてみよう

公平なさいころで偶数が出る確率を求め、四回振った結果と比べましょう。

考えてみよう：二つの問い

偶数が出る確率は？

同様に確からしい六つの結果のうち、三つが偶数です。

四回で必ず二回偶数が出ますか？

短い実験の結果は偶然によって変動します。理論上の確率と毎回ぴったり一致するとは限りません。

参考資料

openstax.org
https://openstax.org/books/introductory-statistics-2e/pages/3-1-terminology

Studera.aiが作成した学習用の作例です。studera.ai/ja/gakushu-shiryo/mindmap-rei でマップを活用できます。